

○永井 学

次に、本県における自然保育の調査研究の進捗状況について伺います。

移住政策の大きなテーマとして、「いかに子育て世代に移住してもらうか」があります。

私は、子育て世代の移住希望者が、本県に求める一番のポイントは、豊かな自然の中で子供を育てたいということだと思います。移住奨励金やサービス無償化なども、もちろん判断材料になりますが、それは移住先を決める最大の条件ではありません。移住希望者が思い描くライフスタイルにどう応えられるかが、決め手になると思います。そして子育て世代に対しては、本県のキラーコンテンツである自然を生かした子育て環境をいかに提供できるかが重要です。

昨年の十二月議会において、私は森のようちえんを例に出しながら、自然保育の必要性を訴え、質問させていただきました。その答弁の中で「森のようちえんの活動については、多面的な要素を持っていることから、今後は他県の状況や課題などについて整理し、どのような取り組みが可能か、部局横断的に調査研究してまいりたい」との御答弁をいただきました。

そこで、森のようちえんの調査研究について、どのような内容で調査し、どの程度、進捗しているのか伺います。

●総合政策部長(吉原美幸)

ただいまの御質問にお答えいたします。

森のようちえんの活動につきましては、保育、幼児教育、自然体験学習など、多面的な要素を持っていることから、これまで、関係各課におきまして、県内で自然保育を提供している団体や、先進的な取り組みを実施しているとされております長野県の状況等について調査・研究を行ってまいりました。

その結果、自然保育を行う団体は、幼稚園、保育園、NPO法人などの形態があり、提供する自然体験活動の内容も、さまざまであることや、移住希望者にとって、豊かな自然を生かした保育・教育環境に対する関心が高い一方、こうした自然保育の活動は広く知られていないことなどが、明らかになったところであります。

県といたしましては、こうした状況も踏まえ、本県の豊かな自然環境を生かした移住の促進をさらに進めていくことが、必要であると考えております。

以上でございます。

○永井 学

周知の部分が、今、知られていないとおっしゃいましたけれども、そこが非常に重要だと思います。今、部長の御答弁、長野県の例がありましたが、そのことを踏まえて、次の質問をさせていただきます。

次に、本県の自然保育の推進について伺います。

移住希望地第一位の長野県は、信州型自然保育認定制度を創設し、移住者に具体的な保育プログラムをPRするとともに、長野県に暮らしている方々に対しても、新しい保育の形を提供しています。

この制度では、屋外活動を行う時間に応じて、週十五時間以上行う既存の森のようちえんなどを特化型、一般の保育園や幼稚園、認定こども園などのうち、週五時間以上を行うものを普及型と分類しています。一般の保育施設も、普及型として自然保育のプログラムに参画してもらうことで、長野県全体で自然保育を普及させようとしています。

また、時期を同じくして認定制度を創設した鳥取県では、森のようちえんに対して活動費等を助成しており、さらに岐阜県や三重県で、自然保育の取り組みが広がっております。

調査研究に時間をかけている暇は、もうありません。本県も、この自然保育を推進するため、具体的な検討を直ちに開始すべきと考えますが、県の御所見を伺います。

●総合政策部長（吉原美幸）

ただいまの御質問にお答えいたします。

子育て世代の移住希望者にとって、充実した子育て環境は、移住を決める際の重要な要素であり、森のようちえんを含めました自然保育のニーズは、相当程度あるものと考えております。

本県におきましては、森のようちえんを初めとした多種多様な団体におきまして、豊かな自然環境を生かした特色ある保育・教育環境を提供しているところであり、移住者からも好評を博していると考えております。

このため、六月補正予算におきまして、全国トップレベルの子育て支援策を対外的に発信するための所要の経費を計上し、本県の豊かな自然を生かした保育・教育環境につきましても積極的にPRし、本県への子育て世代の移住を促進してまいりたいと考えております。

○永井 学

昨年十二月の質問でも申しましたが、山梨県では、全国でも先進的な取り組みを行っているピッコロさんという森のようちえんがございます。この施設には、きょうも施設からたくさんの方がいらっしゃっていただいておりますが、他県から移住してきた家族のお子さんたちが多くおられます。

それは、山梨県の自然環境が呼び寄せた家族の方たちです。先ほど、部長が答弁でおっしゃられましたPRですけれども、全国トップレベルの子育て支援をPRしていくのであれば、ぜひこの森のようちえんのPRも、あわせてしていただきたいと考えます。ほかの都道府県に乗りおくれることがないよう、もう既に若干乗りおくれてはおりますが、しっかり自然保育の普及について取り組んでいただきたいと思っております。